

平成25年度日本小児外科学会
第5回定例理事会議事録

日 時：平成 25 年 10 月 23 日（月） 10：00～15：00

会 場：学術総合センター2階 202+203

出席者：仁尾正記（理事長）、黒田達夫（副理事長）、濱田吉則（理事・会長）前田貢作（理事・副会長）、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡、八木 實、漆原直人、米倉竹夫（以上理事）、岩中 督、田口智章、菫澤融司（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、小室広昭、（庶務副委員長）吉澤穰治（財務会計副委員長）田中 拡、佐藤正人（庶務委員）、福本弘二（第 28 回秋季シンポジウム事務局）堀口裕輔（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、松藤 凡理事、米倉竹夫理事とした。
2. 平成25年度第4回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 報告事項

1) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 神奈川県医師会からの寄贈本「神奈川医学会雑誌No.40-2」を受領した。
- (2) 日本医師会からの寄贈本「JMAJ Vol.56-3」を受領した。
- (3) 日本医学会からの寄贈本「日本医学会分科会一覧」を受領した。
- (4) 日本医師会からの通信文「平成 25 年度医師会医学賞、医学研究奨励賞選考結果」を受領した。
- (5) 難病のこども支援全国ネットワークからの冊子「がんばれ！Vol.140」を受領した。
- (6) 日本製薬工業協会からの冊子「製薬協ニューズレターNo.157」を受領した。
- (7) 日本小児科医会からの冊子「日本小児科医会会報第 45 号」を受領した。
- (8) 厚生労働省安全対策課からの冊子「医薬品・医療機器等安全情報 No.305」を受領した。
- (9) 日本学術会議からの冊子「全員加盟医師組織による専門職自立の確立」を受領した。
- (10) 日本小児看護学会からのお知らせ「理事長退任新理事長就任の挨拶」を受領した。
- (11) 日本医学会からのチラシ「第 145 回日本医学会シンポジウム開催について」を受領した。
- (12) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.43-No.10」を受領した。
- (13) 日本医師会からの通信文「第 66 回日本医師会設立記念医学大会」を受領した。
- (14) 日本リウマチ学会からのお知らせ「事務局移転について」を受領した。
- (15) 日本専門医制評価・認定機構からのチラシ「第 5 回市民健康フォーラム開催案内」を受領した。
- (16) 日本医療機器テクノロジー協会（旧 日本医療器材工業会）からのお知らせ「一般社団法人への改組と団体名称の変更について」を受領した。
- (17) 日本がん治療認定医機構からの寄贈本「教育セミナーテキスト」を受領した。

- (18) 日本小児がん研究グループ (JCCG) について、仁尾理事長より、資料に基づき、JCCG の立上げに関し、現在、準備委員会主導のもと、平成 28 年に法人化するべく、各委員会が活動を始めていることが報告され、了承された。また、田口監事より、JCCG の資本として、厚生労働省へ新学術領域として科研費を申請中であることが申し添えられた。
- (19) *Advances in Neuroblastoma Research 2014* について、仁尾理事長より、広報依頼が届いていることが報告され、ホームページへ情報掲載することとなった。
- (20) 日本犯罪学会設立百年記念大会および児童虐待の公開シンポジウムについて、仁尾理事長および岩中監事より、広報依頼が届いていることが報告され、ホームページへ情報掲載することとなった。

2) 日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会、日本小児科連絡協議会 (三者協) について (田口監事)

田口監事より、資料に基づいて、小児慢性特定疾患委員会への本会の対応状況が以下の点につき、報告され、了承された。

1. 小児慢性特定疾患治療研究事業研究班 (松井班) 報告書の内容確認等について
 - 1-1. 修正等の確認
 - 1-2. 病名の確認 (病名根拠の明示の必要性、小児科学会用語集への収載要望)
 - 1-3. 疾病登録管理における ICD コードの問題の検討→ICD11 作成作業中
2. 新規要望疾患の情報の整理について
3. 対象基準の整理について
4. 診断ガイドライン (診断の手引き) の作成作業の進め方について
5. 小児慢性特定疾患治療研究事業ポータルサイト作成のための情報提供について
6. 小児慢性疾患患者の成人期への移行検討 WG への委員 (尾花) の推薦について

また、田口監事より、第 155 回および第 156 回の日本小児科連絡協議会 (三者協) に関して、資料に基づいて報告があり、以下の点説明があり、了承された。

- ・成育基本法制定に向け、現在、議員連盟を発足させる準備段階である。
- ・仮称「地域総合小児医療認定」制度発足に伴い、本会も関与していく。

4. 審議事項

1) 第51回学術集会について (濱田会長)

濱田会長より、資料を基に、プログラム内容の説明があり、承認された。

また、ワークショップに小児泌尿器疾患治療に関するテーマを挙げてはどうか、との提案があり、承認された。

日時：平成 26 年 5 月 8 日 (木)、9 日 (金)、10 日 (土)

会場：大阪国際会議場 グランキューブ大阪

テーマ：『小さな命への新たな一歩』“Next First Step for Sick Children”

理事会、評議員会：平成 26 年 5 月 7 日 (水)

2) 第52回学術集会について (前田副会長)

前田副会長より、資料を基に、準備状況の説明があり、承認された。

日時：平成 27 年 5 月 28 日（木）、29 日（金）、30 日（土）

会場：神戸国際会議場

テーマ：全ては子ども達の笑顔のために：Challenge and Care（暫定）

理事会、評議員会：平成 27 年 5 月 27 日（水）

評議員懇親会：5 月 27 日 会員懇親会：5 月 29 日

3) 第28回秋季シンポジウムについて（福本評議員）

福本評議員より、資料を基に、開催収支報告（参加者284名 内訳：秋季シンポのみ80名、秋季シンポ+PSJM 204名）がなされ、承認された。

4) 第29回秋季シンポジウムについて（菫澤会長）

菫澤会長より、準備状況が報告され、承認された。

5) 第30回秋季シンポジウムについて（前田理事）

前田理事より、資料を基に、準備状況の説明があり、承認された。

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）

会場：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

PSJM2014（平成26年10月30日（木）・31日（金））との合同開催

6) 庶務委員会（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

2013 年 9 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,869 名（うち海外 2 名）、評議員 317 名、名誉会員 54 名（うち海外 8 名）、特別会員 67 名（うち海外 1 名）の合計 2,307 名である。

7) 財務会計委員会報告（渡井財務会計委員長）

渡井財務会計委員長より次回理事会にて会計中間報告を提出することが報告され、了承された。

8) 各種委員会報告

(1) 国際・広報委員会報告（仁尾理事長）

仁尾担当理事・北川理事より、資料に基づき以下の報告がなされ、承認された。

・ WOFAPS-Council Meeting 報告

1. New Constitution が承認された。1974 年 10 月サンパウロで設立。理事会の構成は President, Vice presidents, Immediate past president, Congress president, 7 名の地域代表理事 (Africa1, Asia2, Europe1, Middle East1, North America1, Latin America & Caribbean zone1, 3 年ごとに Council Meeting の選挙で選ばれる、連続 2 期まで再選可)。年 2 回の理事会があり、最低 1 回の出席義務あり。先に行われ

た Executive Committee meeting (2013.10.13) で、北川博昭先生とオーストラリアの Cohen 先生が 2014-2017 のアジア代表理事 (2 名枠) に推薦され、Council Meeting にて無投票で承認された。

2. 2014-2017 理事長 Gupta(Indo)、副理事長 Sigaret (Qatar)、Shehata (Egypt)が推薦され承認された。地域的な偏りがあるので異論も出たが、そのまま承認された。
3. World Congress 次次期 (6 年後の 2019) 開催地として Sydney, Kuala Lumpur, Istanbul, Doha の 4 都市が立候補して熱心な招致プレゼンテーションが行われた。Kuala Lumpur は ASEAN 10 ヶ国の思いを熱く語って好印象であったが、選挙で Doha(Qatar)に決定した。

(2) 機関誌委員会 (北川担当理事)

北川担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・機関誌の発行に際し、全会員へメールマガジンのような形で、論文題名および筆頭著者や学会・セミナー開催や報告・要望事項などのお知らせを案内していくことを次号から採用していくことを検討している。
- ・今年度の優秀論文賞について、選定作業を進めているところである。

(3) 保険診療委員会 (窪田担当理事)

窪田担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・各委員の役割分担を以下の通りにした。

■外科系学会社会保険委員会連合 (外保連)

実務委員会：窪田理事

手術委員会：川瀬顧問、小高委員

コーディングWG：川瀬顧問

医療材料・医療機器WG：新井委員

処置委員会：小高委員、(檜委員)

検査委員会：大橋委員、(武田委員)

生体検査コーディングWG：大橋委員

生体検査に係わる医療材料WG：矢内委員

内視鏡検査の適正な診療報酬評価に関するWG：小高委員

麻酔委員会：井上委員

■診断群分類見直し作業班、MDC14/15 (新生児・小児) 作業班

川瀬顧問、瓜田委員、仲谷委員

■日本外科学会保険診療委員会 窪田理事、川瀬顧問、小高委員

■日本小児期外科系関連学会協議会窪田理事、川瀬顧問、小高委員

- ・8月30日、新生児医療連絡会事務局長、大阪大学病院周産期センター副センター長の和田和子先生から、NICU加算日数に関する延長の提案へ賛同することが前回理事会にて決定されたことに伴い、当委員会としては、厚労省への要望の準備として、各委員が所属するそれぞれの施設において、昨年の新生児外科症例の出生時体重、入院日

数および人工呼吸器使用日数について調査を開始している。

- ・東北大学小児外科和田基先生より、「厚労省の医療上必要な未承認薬第三回募集」に関して、短腸症候群治療薬 GLP-2 (glucagon-like peptide 2) アナログ薬 商品名 Gattex, Revestive (NPS Pharmaceuticals)、一般名 teduglutideの申請依頼があった(添付資料1)。当委員会では9月29日にこれを承認し、当学会ホームページへの掲載も検討している。また、日本外科学会(外保連)から要望するかどうか、問い合わせ中である。
- ・外保連手術委員会から手術試案8.2版最終案の確認依頼があり、下記の術式名変更を要望した。

(旧) (新)

先天性巨大結腸症手術→ヒルシュスプルング病手術

鎖肛手術→直腸肛門奇形手術

先天性胆道閉鎖症手術→胆道閉鎖症手術

ヘルニア手術(腹直筋離開)・臍帯ヘルニア手術

→臍帯ヘルニア、腹壁破裂手術

副腎悪性腫瘍摘出術(腹腔鏡下)→

副腎悪性腫瘍摘出術(腹腔鏡下)(褐色細胞腫を含む)

- ・ICD-11小児科TAG担当の長崎大学小児科森内浩幸先生より、茨城県立こども病院工藤豊一郎先生を通じて当学会へ、ICD-11ドラフトの消化器疾患(chapter12)と先天奇形(chapter17)に関して、検討の依頼があった。当委員会ではメール審議を行い、検討結果をまとめた。
- (4) 悪性腫瘍委員会(米倉担当理事)
- 米倉担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。
- ・年次登録に関する倫理委員会申請において研究期間は、2014年まで(10年間)となっており、更新が必要となる。ただし、現在の疫学研究の倫理指針の状況を踏まえて、現在の形式で更新を行うかどうか、検討が必要である。
 - ・2001~2005年登録症例の予後追跡調査は、学会誌2013年6号に掲載予定である。
 - ・年次登録に関する担当委員は基本的にはこれまでを継続していただく。新たにデータ管理、利用担当をもうけ、NCDとの連携や現在までのデータの利活用について検討する担当として文野委員、新規企画担当および倫理委員会申請更新担当として菱木委員、HP担当として平井先生が任命された。
 - ・年次登録集計分析のスケジュールは、各地区センター幹事から委員長へは10月15日が〆切、11月までに委員長から各担当委員に発送して解析をお願いする。12月上旬を解析〆切とする。
 - ・稀少小児悪性固形腫瘍の調査報告については、具体的は方法を含め、菱木委員を中心

に構想を立てていくこととした。

- ・NCDとの連携については、どのような形で利活用していくか考慮するため、今後のNCDとの話し合いの席に文野委員と近藤地区幹事に参加してもらうこととした。

(5) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・ 新生児に関するアンケートのタイムスケジュールは従来の日を踏襲して行うこととした。
- ・ 新生児アンケート一次調査依頼にファイルメーカーのver.と記憶媒体（CD,USBあるいはホームページからのダウンロード）の希望を聞く予定である。（二次調査内容が理事会で承認後、ホームページから二次調査用のファイルメーカーをダウンロードできるようにすることが可能かどうか国際・広報委員会に確認する）→その後の検討でソフトに関してファイルメーカープロRuntime(File Maker Proを必要としない様式)を用いる。このファイルメーカープロRuntimeについては凡そ6万円程度であることが報告され、購入することが承認された。なお、倫理手続については、金沢医科大学において倫理審査を通過しており、その旨を二次調査依頼内容に盛り込むことが確認された。
- ・ 新生児アンケート二次調査内容につき、これまでの調査内容に変更は行わないが、和田委員から追加希望のあった腸管不全の項目を16. 新生児期の高カロリー輸液の項目に使用期間と肝機能障害の有無が副項目として追加されることが承認された。ただし、この結果は公式に発表（論文）される前には他の研究で使用しないことが確認された。また、結果は学術集会、学会誌だけではなくPSIにも投稿したいとの要望があった。

(6) 倫理・安全管理委員会（漆原理事）

漆原担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・ 最高裁判所より医事関係訴訟における鑑定人推薦依頼があり、推薦にあたっては最高裁判所医事関係訴訟委員会宛に推薦者の氏名・所属・連絡先（可能であれば経歴も）について、1ヶ月程度を目途に回答してほしいとのことである。これに対して指導医を対象に鑑定人推薦諾否アンケート（平成25年10月実施）を行い、その結果を基に、鑑定人候補リストを作成し、理事長へ報告の上、理事長にて推薦者を決定する予定である。
- ・ 医事関係訴訟における鑑定人推薦者選定の具体的な方法について、規約に明文化すべきかどうか検討の結果、倫理・安全管理委員会としては鑑定人候補リストを作成し、それを基に理事長が候補者を決定する現在の方法を維持することが確認された。

(7) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・ 「臨床データの取り扱いに関する規定」について2010年に検討途中であった案が確認

され、現状に見合った内容を委員会で再検討することとなった。

- ・NCD手術症例データの2011年度登録件数(日本外科学会作成の小児領域データ)について、資料に基づいて報告され、今後は小児外科を保有する施設と保有しない施設での症例比較を行う予定であることが了承された。

(8) 小児救急検討委員会 (松藤担当理事)

松藤担当理事・黒田理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・第4回小児救急セミナーについては、第51回学術集会会期中に「Damage Control Strategy」を予定しており、1時間のセミナーで2名を外部招聘の講演とし、20分前後をセミナー委員の用意する症例提示する方向で検討している。
- ・今後のPALS講習会は学術集会開催場所で行うのか、あるいは学術集会開催場所にとらわれず場所を固定して行うか議論し、結論はでなかったが、学会開催場所を基本として、トレーニング場所を考えることとし、近傍に適切なトレーニング施設のない場合は中止することも考慮することも必要である。なお、大阪ACLS協会のラボが使用できれば会場費用は不要であるが、その場合も含め、トレーニング参加費の援助を学会負担とすることについては、継続審議事項とされた。
- ・小児救命救急センターについて、厚生労働省は現在8施設を認定しているが、今後は全国で20施設を認めていく方向である。
- ・大規模災害への取組として、日本小児救急医学会との連携のもと、検討を進めている。

(9) ワークライフバランス検討委員会 (窪田担当理事)

窪田担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・今後の活動案およびその担当者の決定
- 『妊娠・出産・育児・介護等期間中』の専門医更新猶予規定などに関して：小林委員
小児外科学会および他学会の現状調査、広報、改善点があれば提言
- 小児外科学会ホームページ上での広報
- a. 委員会HPの開設： 中原委員長
「委員長挨拶」と前委員会で集計報告した「アンケート結果」を掲載する。
- b. ロールモデル紹介：脇坂委員、石丸委員
女性小児外科医およびその上司、男性小児外科医（介護経験者など）へのインタビューおよびHP掲載。
- c. 介護や育児支援を施行している施設の紹介、キャリア支援策の公表：
世川委員、田附委員
- ワークライフバランスについての啓蒙活動、懇親活動
- a. 講演会の企画：中原委員長
総会やPSJMの際に環境が整えば、自治医大の桃井真里子医学部長や立元敬子病院長などキャリアを積まれた女性医師の講演会を検討する。なお、講師の謝礼・旅費についても今後発生する場合には、規定に沿って、運用することが確認された。
- b. 懇親会・親睦会の企画：杉山委員

ワークライフバランス、男女共同参画、女性キャリア支援などに関心のある会員向けの懇親会（朝食会など）を企画し、会員間の懇親を図るとともに精神的なサポートにつなげる。

今回10月24日の講演会後懇親会を予定

■他学会・海外の男女共同参画WGとの交流、ネットワークづくり：

平井副委員長、尾花委員

(10) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・疾患担当の各委員は具体的に移行期にかかる疾患名を特定し、問題点および解決策（要望）を明確にすることにつき、委員会を開催し、各自担当を確認した。

家入委員：Hirschsprung病、類縁疾患 古賀委員：小児泌尿器疾患

佐々木委員：胆道閉鎖症、胆道拡張症 曹委員：先天性横隔膜ヘルニア、腸管不全

横井委員：気道疾患

脇坂委員：小児がん

渡辺委員：リンパ管腫

施設・病態担当委員は大学病院、小児病院、一般病院など施設種類による移行期の現状把握および問題点を洗い出す。

深堀委員：重症心身障碍児、大学病院

藤代委員：大学病院、トランジションセンターの在り方

渡辺委員：小児病院、成育医療施設

6) 専門医制度研修プログラム整備指針の件（仁尾理事長、黒田専門医制度庶務委員長）

仁尾理事長より、資料に基づき、日本専門医制評価・認定機構より 2017 年から開始される中立的第三者機関による認定制度における学会の認定する研修プログラム作成依頼があったことが報告された。現在、専門医制度委員会にてプログラム作成に取り掛かる段階であることが報告され、了承された。

7) その他

(1) 看護師の診療補助における特定行為（特定認定看護師の問題）について（仁尾理事長）

仁尾理事長より看護師の診療補助における特定行為つき以下報告があり、承認された。

- ・看護師の診療補助における特定行為は、現在 14 種類に区分された特定行為について個々に修了していく形が予定されているが、この 14 種類の特定行為には小児領域について特に区別はされていない。
- ・14 種類の特定行為における小児領域の行為を履修できる仕組みを厚生労働省に要求していくべきかどうかにつき、審議の結果、この特定行為制度の趣旨が診療行為を看護師が補助し、医師の負担を軽減することであり、行為に制限を加えるよりも行為を広く認める方向にあることから、小児領域に特段の区別をしていない現行案に対して敢えて配慮を望むような提案はしないこととなった。

・本件については、日本小児期外科系関連学会協議会・日本小児科連絡協議会（三者協）へ情報共有していくことが申し添えられた。

(2) 第 50 回学術集会および 50 周年記念事業会計報告について（岩中前会長）

岩中前会長より、第 50 回学術集会会計および 50 周年記念事業に関する支出の按分案が資料に基づいて報告され、審議の結果、承認された。按分案によれば、記念誌発行費用を除く 50 周年記念事業支出額は凡そ 1500 万円となり、この費用の拠出については 50 周年事業寄附金 900 万円・50 周年記念事業積立金 200 万円・第 50 回学術集会会長から充当 250 万円（予定）・学会本体から充当 150 万円（予定）にてまかなう方針が了承された。

また、50 周年記念誌発行費用については凡そ 400 万円となり、この費用の拠出については 50 周年記念事業積立金 200 万円・学会本体から充当 200 万円（予定）にてまかなう方針が了承された。

なお、50 周年記念事業に関する収支を次回評議員会にて報告することとなるが、当該報告には、記念誌発行費用も含めた収支報告とすることが確認された。

(3) 学術集会在り方委員会報告（黒田担当理事）

黒田担当理事より、現在、学術集会にかかる種々費用（接遇など）について検討中であり、総合調整委員会を通して、さらに審議を進める予定であることが報告され、承認された。

(4) 日本小児血液・がん学会学術集会について（田口監事）

田口監事より第 55 回日本小児血液・がん学会学術集会会長として、平成 25 年 11 月 29 日～12 月 1 日にヒルトン福岡シーホークで開催すること、および会期中に関連委員会を開催する場合の申込を受け付けていることが報告され、了承された。

8) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成26年1月27日（月）11：00～16：00 日本外科学会会議室にて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____